



地下鉄短信 (第469号) 令和2年12月25日発行

編集 (一社)日本地下鉄協会 責任者 佐々木雅多加
電話 03-5577-5182(代) FAX 03-5577-5187



記事 ○ 「第5回軌道部会」の開催

○ 「第5回軌道部会」を開催しました。

去る、12月21日(月)に、当協会9階会議室において、東京地下鉄(株)をはじめとする3事業者5名と公益財団法人鉄道総合技術研究所(以下、「鉄道総研」という。)から5名の計10名によるリアル会議への出席に加え、今回初めての試みであるWeb会議に参加された9社局15名、計25名の参加を得て、第5回軌道部会を開催しました。

今回は、新型コロナウイルスの影響により、対面の会議開催が困難なことから、当協会でもWeb会議システムを導入することとし、遠方の各社局からはWeb会議への参加を得て、開催することができました。

今回の部会では、鉄道総研から、①「鉄道技術の国際標準化に対する最新の動向等」についての講演をいただいた後、②-1「軌道モニタリングシステムの導入についての課題」、及び②-2「急曲線部における外軌レールの摩耗」についての2つの課題研究をテーマとして、研究討議を行い、その後、③「浅草線レール破断事象の原因と対策」について、報告がありました。

まず、①「鉄道技術の国際標準化に対する最新の動向等」については、鉄道総研鉄道国際規格センター管理課長芳賀昭弘様から、「国際標準化に対する最新の動向についての一般論」を、また、同センター磯崎光様から「軌道分野における規格の審議状況とその対応」についてのご講演をいただきました。講演を受けて、鉄道事業者からは、レール等物品の国際調達にあたり英訳も含めたドキュメント化等が必要で、このための情報提供について協力をお願いしたいとの要望に対して、鉄道総研としても本研究会等の場を通じて協力する旨の回答がありました。

続いて、②-1「軌道モニタリングシステムの導入についての課題」については、前回開催の第4回部会でのJR東日本(株)による「線路設備モニタリングの現状と展望」についての講演を踏まえ、神戸市交通局から、『線路設備モニタリングの各社局における導入状況』についてのアンケート調査結果について報告がありました。アンケート調査において導入を検討している、東京地下鉄(株)、大阪市高速電気軌道(株)、及び仙台市交通局からその後の状況についての補足説明があり、引き続き、費用対効果等を含め検討していく旨の報告がありました。



Web 併用会議の開催状況



鉄道総研 芳賀課長

引き続き、②-2「急曲線部における外軌レールの摩耗」について、仙台市交通局から課題報告並びに各社局における状況についての説明がありました。本課題については、仙台市交通局として講じている様々な対策に対して、鉄道総研鉄道摩擦材料研究室主任研究員兼松義一様から、各社局の意見を踏まえた材質の変更による効果や、レール塗油による効果について、研究報告をもとに分りやすい解説があり、鉄道事業者にとって貴重な提案をいただきました。

最後に、東京都交通局から、③「浅草線レール破断事象の原因と対策」の概要について報告がありました。これは、浅草線のレール破断による輸送障害が平成31年1、2月に発生したもので、鉄道総研鉄道レールメンテナンス研究室長山本隆一様から、原因と対策について、具体的で分りやすい解説がなされ、軌道業務に携わる担当者にとって、非常に参考となる報告となりました。

今回の研究会は、初めてのWeb会議による開催のため、リアル会議のような対面の会議に比べ活発な議論に欠けること、また議事進行に時間を要することなど、今後の課題として残りました。

最後に、軌道部会も今回で、第5回を数え、節目として過去5回分の配付資料を製本し、各社局に送付することの了解を得て会議を終了しました。



鉄道総研 山本室長、兼松主任研究員

(注) 必要に応じ、社内へ転送、回覧などをお願いします。

配信先を変更又は追加した方がよい場合は、新しい配信先の職名、氏名及びメールアドレスをお知らせ下さい。

本短信について、ご意見をお寄せ下さい。

連絡先: sasaki@jametro.or.jp